

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201064		
法人名	社会福祉法人 伸康会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	036-8381 青森県弘前市独狐字石田172-1		
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族、地域とのかかわりを大切にします ・安心して暮らせるよう一人ひとりに寄り添います
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>周辺にはリンゴ畑が広がり、農作業する地域住民と散歩途中に挨拶を交わすことも多い。町内でイベントがあれば招待されたり、地域住民の訪問やボランティアを受け入れたり、地域の中で孤立することのないよう日頃から積極的な交流がある。同法人の老人保健施設や協力医院との密な連携もとれており、重度化や急変時も利用者と家族が安心できる体制が整えられている。資質向上にも力を入れており、毎日5分間研修と題して、マニュアルの振り返りや接遇などの勉強会を実施し、新人の職員にも入社時に研修を行っている。また、年1回利用者や家族にアンケートを実施し、普段も意見や要望がないか問いかけを繰り返し、利用者一人ひとりの思いやペースを大事にしながら寄り添ったサービス提供を心がけている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示しており、それを共有している	職員間で理念が共有できるよう、玄関や掲示板など見えるところに掲示し、日々意識しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリスマス会、敬老会などのイベントには保育園児、中学生等の慰問、ボランティアを募り、受け入れている。 また、地域のお祭りや敬老会などにも参加している	地域とのつながりを大切にしており、近隣の保育園や中学校による訪問や、ボランティアを受け入れたり、町内のイベントに参加したりと、地域交流に積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、要望があれば介護教室も行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから利用者の生活状況、介護保険制度等の報告、町会長・包括からの地域情報、行政から制度利用について、家族からの意見要望を踏まえサービス提供している	2ヶ月に1回開催し、グループホームの状況や取り組みの報告の他、地域の情報や制度利用についても聞ける場となっている。頂いた意見や要望は検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護、事故報告その他の行政利用について密に報告、相談している	運営推進会議の他、困難事例や対応に困ったときなどは、電話をしたり市役所に出向いて報告や相談をしており、普段から密な関係を築くよう積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル確認の研修を行っており、日中の施錠を含め身体拘束は行っていない	マニュアルを整備し、毎日の5分間研修で振り返り理解を深めている。利用者の状況をその都度話し合うなかで、拘束行為にならないか意識しながら、日々のサービスに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの確認研修を行い周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んだ事を周知できる機会を設ける		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書面を細かく説明し、理解・納得を確認している。制度改定時は書面にて家族への理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時の聞き取り、アンケートを行い運営に反映させている	面会時に常に問いかけをし、家族が意見や要望を話しやすいよう雰囲気作りに努めている。また、年1回、利用者と家族にアンケートも実施している。意見や要望は職員間で話し合い運営に反映させている。外部の機関に意見を表せることを書面、口頭で説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議、計画作成担当者とのミーティングから吸い上げ必要であれば法人へ提案している	会議やミーティングだけでなく、普段から職員が意見を言いやすいよう雰囲気作りに留意している。職員の気づきや意見は日々の業務に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規程類に沿って人事考課、チャレンジ制度など職場環境の整備を進めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	5分間研修の実施以外にも要望があれば介護技術、制度について随時研修を行う事を計画作成担当者とのミーティングで周知している。 また、法人で介護職員研修を実施		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学受け入れと他事業所での勉強会への参加、定期での交流を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後は個別ノートでの生活状況、ニーズ把握に努め、職員間でも情報共有を徹底している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み、契約時に課題、ニーズの吸い上げに努め、本人が慣れるまでは細かな報告、相談を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望が適切な支援になるかどうかも含めて見極めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動等役割を担っていただいている得意なものは教えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況報告とイベント参加、推進会議への案内をしている 面会時には積極的なコミュニケーションを心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの床屋やお店など外出の要望があれば援助している	利用者の馴染みの人や場所との関係を把握しており、時には家族の協力を得ながら関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動、おやつ作り等協働が円滑になるよう支援している。 関係が悪くなったら速やかに仲介している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も病院への見舞い、他施設への仲介、併設施設への面会を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の細かな要望は速やかに実施 聞き取り困難な場合は表情や態度で推測している。必要であれば家族に相談をし判断を仰ぐ	日々の利用者の表情や言動、様子から思いを汲み取るようにし、家族とも話し合いながら本人本位の支援が出来るよう職員間で話し合い、サービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	茶碗、湯飲み等なじみの物を持参いただくよう申し込み時、見学時に説明している センター方式の利用		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームが家であることを前提に規則正しい生活も大切だが、本人の希望や状況を勘案して日々の暮らしを支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議、モニタリングで本人、家族の意見要望も聞き取り計画を作成している	本人や家族の意向を聞き取りし、現状に即した内容となるよう計画の作成や評価、見直しを行っている。	面会時や電話で家族の意向を聞き取りしているが、介護計画作成の際、家族に時々でも会議への参加を呼びかけることでより良い計画となることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活状況は経過記録に記載して職員間での共有、計画に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・行政への代行手続き、他制度の相談、支払い相談など可能な限り対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の敬老会への参加、公民館の祭り 花火祭りなどへの参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院以外の定期受診は家族かヘルパーが対応しその場合は書面にて病状、生活状況を報告している	協力医院がかかりつけ医の場合は往診もあり、状態の変化が合った場合、相談にのってくれている。協力医院以外のかかりつけ医を継続希望される場合は、家族の協力を得て受診してもらっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急を要する場合は併設施設の看護師が対応しかかりつけ医と連携をとる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は現場看護師、ワーカーと連携を密にし法人他事業所も含め受け入れ態勢があることを伝え、病院任せにしない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医院の患者に限り家族の希望があれば終末期ケアを行う。その際も家族には医師から説明している。	入居時だけでなく、状態に変化があればその都度話し合い、医療機関と連携を取りながら本人や家族の意向を踏まえて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の急変時については指示書にて対応 事故についてはマニュアルを研修で確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施	年2回、夜間と火災を想定した訓練を消防署の立会いのもと実施し、法人との協力体制が築かれている。今年度中に水害や地震を想定した訓練も予定している。	緊急時よりスムーズに対応できるよう、近隣住民に訓練の見学や参加の声かけをすることで、より強固な協力体制が築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴の個別対応、排泄介助での羞恥心に配慮しさりげない声掛け、さりげない介助に気をつけている	新人研修や5分間研修で、秘密保持について確認し、日々のかかわりのなかでもプライバシーの保護や人格の尊重を意識している。排泄や入浴時の声かけの内容、声の大きさには特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思確認を日常化して希望・意見を表出しやすい環境づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、時間がかかっても、手間が増えても本人のペースを守る		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、染髪は本人が決め、化粧用品の購入も支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを準備から後片付けまで、お手伝いできる方にお願いしながら提供している	希望により馴染みの食器を使用することも可能である。季節や行事を意識した献立となっており、個々の好みや状態に合わせて調理方法を工夫したり、代替食を提供している。利用者にも出来る範囲で手伝いをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量はチェックして体調管理に役立てている。入所時の聞き取りで、アレルギー、好き嫌いも確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがい食後の口腔ケアは毎食行っている。夜間は義歯消毒も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で把握し支援している	排泄チェック表を活用しながら、個々のリズムを把握し、本人のペースに合わせて、職員が察知してトイレ誘導を行っている。夜間は状態に合わせてポータブルトイレも使用し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供と摂取量確認と日中2回の体操時間を設け体を動かす支援をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の意向、体調にあわせて支援している	入浴はほぼ毎日あり、本人の意向や体調に合わせて日にちや時間をずらすなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせての声掛けや、支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬説明表を理解し適切に支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや軽作業での活躍の場面設定、日常生活での役割を担ってもらうことで張りや喜びを持っていただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればご家族と相談し家族または協働で連れて行けるよう支援している	家族の協力も得ながら、本人の希望に合わせて対応できるよう配慮している。また、行事やドライブも計画し、散歩や買い物へも気軽に行けるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に了解を得た上で所持する方もおり、自己管理できない方でも買い物等での支払い機会をつくっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話、施設の電話で会話できている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り、室内の温度調節、テレビの音量、職員の立てる物音、声の大きさにも気をつけている	利用者が落ち着いて過ごせるよう、明るさや温度、湿度、音の大きさに配慮している。館内の装飾は季節を意識したものとなり、手作りの温かみのある作品が飾られている。ホールや廊下には、くつろぐことが出来るようソファなどが置かれ、居心地の良い空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりで過ごせたり、仲の良い利用者同士で会話を楽しめるようなソファの配置		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	申し込み時、契約時に自宅で使っていたなじみの物を持って来るよう説明している。また、本人の生活状況に合わせ自宅から持って来てもらっている。	自宅で使用していた家具や生活用品を持ち込むことが出来る。写真や作品などの飾りつけも個々の好みに合わせており、安心して居心地の良い空間となるよう配置も工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、ベッド、テーブル、椅子の高さ調節、居室、トイレが分かるように張り紙等をしている		